

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	H.M	学部・学科	国際教養学部
学年	4	派遣国	イギリス
派遣大学	リーズ・トリニティ大学		
期間	2021年9月19日～2022年5月14日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮					
部屋	個室					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○ (暖房のみ)	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (9万) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (0) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	4万円	
学用品購入費	0円	教科書や授業で使う資料の購入などはなかった
交通費	1万5000円	
交際費	5万円	
その他	0円	

合計 10万5000円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

留学中に立ち入ることがあるようなリーズの場所の中で特に危険な地域はなかった。
また、治安はそこまで悪くなく、スリの被害などには常に気をつけていたが、それでも危ない場面などには会うことはなかった。
治安はあまり悪くないといえ、日本にいる時よりも注意し、特に夜遅くに一人で出歩くとすることは短距離でも控えた方がいいと思う。

3. 医療について

(1) 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(13万) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	IHS (ビザ申請の際にイギリス国民保険システムに入る)		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(74,011) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (リーズ)

・リーズ (市街地)

リーズの City centre には、イギリス名門大学のリーズ大学などを始め、4 つ以上の大学があり、学生の人口が多く、その分留学生も多い。リーズ駅からはロンドンやスコットランドなどイギリスの様々な都市まで電車が出ている。モール等もあり、また学生に人気のバーやパブなどが数多くある。首都のロンドンに比べるとすごく大きい街というわけではないが、リーズの市街地までくれば、求めているほとんどのものがある。しかし、イギリスの観光名所のような場所がリーズにほとんどないので、隣町のヨークやマンチェスター等を訪れてみるといいだろう。

・ホースフォース (キャンパス周辺)

キャンパスはリーズの市街地から車で20 - 30分ほど離れた場所にある。郊外という感じで、人はあまり多くなく、だがローカルのカフェやレストラン、パブなどがたくさんある。リーズの市街地に行くには30分間隔で走るバス27番線を使うか、キャンパスから15分ほど離れたところにあるホースフォース駅から電車に乗るという方法がある。しかし、夜にはさらにバスの本数が少なくなり、またバスは時間通りに来ず、待っていたらキャンセルになっていたということもよくあり、不便に感じるかもしれない。もし公共交通機関が使えなくても、Uber などを使うことで一応大学まで変えることはできる。

【学業編】

1. 大学情報

大学	リーズ・トリニティ大学	所在地	リーズ・ホースフォース
最寄空港	マンチェスター空港 (大学近くにリーズ・ブラッドフォード空港があるが、日本からは便がない)	空港からの距離	
空港⇄大学	<p>・電車 マンチェスター空港駅→リーズ リーズ→ホースフォース ホースフォース駅から徒歩 15 分</p> <p>・バス マンチェスター空港→リーズバスステーション リーズ駅、リーズバスステーションから大学までは荷物がある場合、Uber が便利。だいたい 1500 円から 2000 円。</p>		
学生数	4,985 (2019-2020)	留学生数	交換留学や 1 か 2 セメスターだけいる学生は 15-20 人程度
学部	<ul style="list-style-type: none"> • Business • Children, Young People and Families • Computer Science • Criminology and Sociology • English • Journalism • Law • Media • Philosophy, Theology, Religion and Ethics • Primary Education • Psychology • Sport, Health and Physical Education • Philosophy, Ethics and Religious Studies <p style="text-align: right;">*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。</p>		
学部/専攻	<p>ジャーナリズム</p> <p style="text-align: right;">*留学中に所属した学部/専攻を記載してください。</p>		

2. 週間スケジュール

(9)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		授業 (9:30-13:00)		授業 (9:30-13:00)	
午後					

3. 履修内容

科目 (和訳)	ジャーナリズム基礎 1		
履修期間	10月～1月	単位数	60
授業内容／形態	<p>ジャーナリズムの基礎を学ぶ。 ニュース記事を書くだけでなく、ラジオやニューステレビ番組の作成、ウェブサイトの運営など実技的な課題が多く与えられた。また、裁判を報道する際の法規制など、法律に関わることも勉強し、テストが行われた。</p> <p>3人の講師がおり、授業時間内に課題が与えられ、その課題に取り組み、授業時間外に与えられる延長的な課題がある。授業自体は講義と実践が両方ある。3時間半、休みも入るが、ほとんどそのまま進められる。</p>		
YCU 振替予定	科目	特講 (国際教養学系留学科目 A) 特講 (国際教養学系留学科目 B) 特講 (国際教養学系留学科目 C)	
	単位数	6	
	担当教員		

科目（和訳）	ジャーナリズム基礎2		
履修期間	1月～5月	単位数	60
授業内容／形態	<p>前の学期に取った授業の続き。内容は、前の学期より発展して、個人ワークで犯罪事件を報道するニュース記事を作ったり、自分でテーマを考えて取材をした上で、ニュース記事を作るなどの練習をした。模擬記者会見なども行われ、ジャーナリストとしてどのようにニュースを扱うべきか、報道するべきかなどを実践しながら学ぶ。</p>		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

【総括】

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

渡航したばかりの時は、わからないことも多く、また現地の人とコミュニケーションをとる際に苦労する場面があったため、これからの生活に漠然と不安を抱えていた。しかし、毎日が過ぎるごとに、できることが増え、友達も増えていったので、よりポジティブに過ごすことができた。イギリスは、11月からずっと天気があまり良くなく、太陽が見えないので、気分が落ち込みがちになることがあった。また、15時くらいにはもう外が暗くなるなど、日の入りも早く、また夜も日曜日もいつでもお店が開いている日本とは違い、夜や日曜日はすぐにお店が閉まってしまうので、そこに日本との違いを感じた。日本では、本当に便利な社会に生きていたのだということを実感した。

留学をしようか迷っている人の多くは、経済面と就活や卒論などとの兼ね合いを気にしているのではないかと思う。

経済面で言えば、トビタテ 留学 JAPAN に採用され、14期多様性人材コースとして派遣されたので、月に16万円ほど、返済不要の奨学金を得ることができた。思い切って応募してみてもよかったと思う。

就活や卒論の兼ね合いで言えば、私自身も一番そこに不安をかかえていた。就活は、同じ学年の人たちと同じスタートを切ることができなかった。しかし、帰国後に英語と日本語を使ってグローバルに活躍したい人向けの就活イベント、CFNの東京サマーキャリアフォーラム(6月)に参加し、またLinkedinを通して、随時外資企業の方達と面談をしたり、コネクションを広げるなどし、結果としてかえって自分らしい就活ができた満足している。自分がどのように働きたいかを考えた上で、自分の希望の企業から内定をもらうことができた。みんながやっている就活のやり方が必ずしも自分にとってもいいとは限らないので、その点でも、留学中、または留学後に工夫すれば、就活は何ら問題ないと身をもって感じた。

留学に行こうと決意する人の目的や目標は様々であると思う。この留学を通して、私自身が一番成長したと感じることは、他の人が何をしているかではなく、自分は何をしたいのか、自分の目標は何なのかという、自分を軸において考えることが増えたことだ。留学という経験は、ある意味、日本の生活でルールに敷かれた生き方から逸脱するという経験であったと思う。就活も同じ時期に間に合わないし、授業では正解がある課題ではなく、工夫して1つの作品を作り上げるというものばかりだった。しかし、その中で、自分の意見をもっと大切にするようになった。それは、留学先で自分で考えて行動することが求められたことと、周りの友達がそれぞれ自分なりの人生を歩んでいるということだ。自分の意見を大切に、自分を軸において物事を考えるようになったことで、就活の面接でも、自分がどんなことをしたいか、自分の考えについて、「落とされる」ことを怖がらずに話すことができた。この留学の経験は、私の視点や価値観を変える貴重な経験になったと感じる。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

私は3年の後期から4年の前期にかけて留学したが、修業年数を増やさずに、予定通りにいけば、来年2023年の春に卒業する。そのため、5月の後半に帰国してすぐに就職活動を開始し、無事に7月に終わることができた。就職先は留学していたイギリスの会社で、人材コンサルタントとして働く。外資企業をクライアントにもつので、英語を仕事で使うこととなる。この留学経験を通して、英語の言語能力やコミュニケーション力、そしてアカデミックな高度のトピックを扱うディスカッション力などを向上させることができたので、その能力を活かして、仕事ができることを期待している。

現在、心理学の卒論を執筆しており、その中で、アメリカ等をはじめとする、心理学で先端を行っている海外の研究を先行研究として上で、私自身の研究を実施している。卒論でテーマにする「人間関係と自己の分化（関係の中での自己の個人性とその人との繋がり
の両方を重視するということ）」は、まだ日本では多くの研究がなされておらず、論文の多くも英語である。また、卒論研究で使用する心理尺度（アンケート調査で使用する設問のこと）は、もともと英語であったが、私が日本語に訳し、初めて日本の大学生を対象として研究する。このように、これまでの学習や留学で培った、学問的な場でも使える語学力を活かして、研究をよりハイレベルに進めていけるように、努力している。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

4年の後期に帰ってくる人は特に就職活動など、日本でスタートすることができない分、不安を感じる人も多いと思う。私のオススメとしては、Linkedin をダウンロードし、自分のプロフィール（学歴や経験など、履歴書のようなもの）を作り、どのような職種で働きたいかを登録し、Open To Work 設定にしておけば、新卒採用やインターンシップを探している企業（特に外資系やスタートアップ企業）の方から直接メッセージがくる。私自身も、Linkedin を通してメッセージをもらって企業の方と面接をしていた。また、バイリンガル人材向けに就活イベントなどを開催している CFN を活用し、都合が合えば、イベントなどに参加することをお勧めする。私自身も内定をもらった企業とは、イベントを通して知り合い、その後数回の面接をかけてオファーを頂いた。この2つの手段は、留学経験があり、英語を使って仕事のしたい人材を探しているし、留学中であっても融通が効くので、このような手段を使って「留学経験を活かせる」就活をしてほしいと感じる。

留学をする上で、最も大切だと考えていることは、「目標を持つこと」だと考える。留学中に長期的な目標と短期的な目標をたて、必ず振り返る時間を作ることが必要だ。この留学プログラムは選択した学部の授業を受けるため、これまでの大学生活と同じようなことをして終わってしまう。言語留学であれば、言語の上達など、目に見える成果があるが、学部留学で、目標を立てて振り返る習慣がなければ、留学経験を通して何か成果を得ている感覚がなく、モチベーションに繋がりにくい。

私は、「授業で自分から発言をする」や、「わからないことはそのままにせずに質問する」「ソサエティの集まりに週に一回は行く」「課題の提出期限の前に講師やサポートセンターに提出して、フィードバックをもらって修正する」など、具体的に目標を立て、達成できるように努めていた。このように、常に目標を持って取り組めるといいと思う。

また、留学は、非常に大変な経験や、苦しい思いをすることもある。しかし、そこで自分に厳しくなりすぎず、自分ができるようになったことや、これまでやってきたことで誇れることなどを分かった上で、うまくいかない時があっても、焦りすぎずに休息する時間も大切にしたいと思う。